



夢のリニア中央新幹線セミナー・シンポジウム
主催：リニア中央新幹線飯田駅設置推進協議会

「リニア新幹線が地域に与えるインパクト」 会派として参加

9月2日、松尾公民館にて開催されたリニア中央新幹線のセミナーに、会派のリニアに関連する事業の一環として参加しました。(原 和世議員は公務にて欠席)

主催は、飯田下伊那の80社余でつくる「リニア中央新幹線飯田駅設置推進協議会(会長:宮島八束 飯田商工会議所会頭)で、会派みらいの原会長(飯田ケーブルテレビ)も会員です。

この日は、「リニア新幹線が地域に与えるインパクト」と題して、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社政策研究事業本部研究開発第一部長の加藤義人氏による講演が行われました。

加藤部長は、リニア開通によって東京-名古屋-大阪間の所要時間が現在よりも半分以上縮まることから7千万人が同じ都市圏(通学・通勤・買い物など)が出現するとして、その社会変化を具体的に説明。

これによって飯田地域に与える影響にも触れ、国内の主要都市への移動時間の驚異的な短縮や企業活動の活性化の良い面と、何の対応もとらなければ他の地域からの流入や若者や企業の流出などに車がかかるなどの悪い面を提示しました。

また、会場からの「JR東海は本当に事業化できるのか」との質問に「長い間、技術的な実験が検討されてきている点や、上場企業として株主に責任を持っているから株主に背くプロジェクトはあり得ない。相当に慎重な検討を行ってきている」とした上で、「見守るしかないが、16年後の開業となると時間はない。今から地域として検討をしていく危機感を持ったほうが良いタイミングである」と地域に奮起を促しました。

会派みらいは、Cルートを強く主張すべきとの立場から、飯田駅はできる運命にあるととらえて、今後もシンポジウムに積極的に参加するとともに、飯田駅設置を目指した都市計画やまちづくりの展望をはかるために、新幹線の駅設置を実現させた都市を訪れて多角的に検証するなど、各種の研修を重ねて参ります。

平成21年9月2日 文責；井坪幹事長》

【写真：加藤部長(中央)と会派みらい参加議員/左から、福沢 清・森本美保子・加藤部長・原 勉・井坪 隆】